

【学芸員お薦めの一品】

国際交流展「^{うみやま}海山に宿る神々～^{さいし}日韓の祭祀遺跡～」

2018（平成30）年10月6日～12月2日

企画展の開催期間中、週替わりでお薦めの展示品を紹介します。

No.4 謎の唐式鏡群

宮崎県北部の^{みさとちよう}美郷町南郷区^{みかど}神門に鎮座する神門神社には、17面もの^{とうしききやう}唐式鏡（中国唐代の唐鏡を模倣したもの、あるいは唐鏡を原型として^{さいはん}再範鑄造したもの）が伝来しています。さらに驚くべきことに、それらの鏡の中には太平洋から伊勢湾への入口にあたる^{いらごすいどう}伊良湖水道に浮かぶ^{かみしま}神島の^{やつしろ}八代神社（三重県鳥羽市）に伝わる^{とぼ}唐式鏡と同型の鏡が7面も含まれており、二つの神社には特殊な関係があったとも考えられています。航海の難所とされる海域で海上安全を司る八代神社と、日向灘から直線距離で約30kmも離れた山間部の神門神社にはいったいどのような関係があるのでしょうか。たいへん難しい問題ですが、今回の展示においては一つの解答案を提示しました。ぜひ、皆さんもこの機会に実物をご覧ください、謎解きにチャレンジしてみてください。



唐式鏡（7面）と韓半島の鏡（写真右奥1面） 神門神社所蔵
※宮崎県指定有形文化財

- 【参考文献】岡崎謙治 1960 「神門神社鏡とその同文様鏡について」『大和文化研究』第5巻第9号 大和文化研究会
中野政樹 1972 「奈良時代における出土・伝世唐式鏡の基礎資料および同範鏡の分布とその鑄造技術」『東京国立博物館紀要』第8号 東京国立博物館
奈良文化財研究所飛鳥資料館 2002 『神門神社蔵鏡図録』飛鳥資料館研究図録第1冊